

輝け角鹿

春らんまんです!... 号

令和3年5月吉日

敦賀市立角鹿小中学校



校長室より

新緑が美しい季節となりました。天気の良い日は遠出をして野山の自然に親しみたくになります。コロナ禍の下、今年のGWもほぼ「巣ごもり」状態で終わってしまいましたが、学校は無事再開、休校が続いた昨年度に比べれば、毎日子ども達が学校に通うことができる今は、本当にありがたいことです。

さて、毎日の授業が進めば、やがて「テスト」があります。さすがに小学1年生は6月までないようですが、高学年ではすでに着々と行われているとのこと。中学校は小学校と違い単元毎のテストはしませんが、年間を通じたコンテストと、定期テスト、確認テスト等々があります。テストを受ければ、点がついて返ってきます。結果に子ども達が一喜一憂する姿を見て、教員もまたいろんな意味で一喜一憂しますし、ご家族もまたしかりだと思えます。(私も親でしたのでよくわかります…)

ところで学校には様々な団体や機関から小冊子がたくさん贈られてきます。それらの中で、「親の心」というテーマの小冊子に載っていた話の中から一つ…今年中学に入学した息子さんが持ち帰ったテストの点を見た父親が、「これはさすがにまずいかも…」と愕然としました。それは多分誰が見ても「とても悪い」点数で、本人もショックを受けている様子、どう声をかけてよいのやらと悩みます。そこで母親に相談したところ、彼女は平然と「私も中学1年の最初のテストはこんな点数でショックだったの。でもきっと次は頑張るわよ。」と受けます。それでも父親が「テストが全てだとは思わない。でもこんな点を見たら将来が心配だよ、どうにかしなくては…」と返すと、母親は「じゃあ、何点取ったら安心できるの?安心できる点数なんて、実はないんじゃない?」と反論、その後あれこれ話し合い、子の将来を思うあまりとはいえ、親が不安になったり、逆に期待したりしても、それはかえって負担になるばかりだ。息子が自分の力で切り拓く未来をしっかり見守ろう。」という気持ちになれた、というのです。

私はこの話の前半、父親の心配はもっともだと思いましたが、「何と声かけすればいいだろう。どうすればやる気を出せるだろう。頑張ってもダメだったらどうしよう。」等々、余計なお世話的な思いを巡らせました。そして後半を読んだ時、なぜか私自身が中学生だった40年以上前の出来事を思い出したのです。1学年上の先輩にすごく勉強ができる人がいて、定期テストで499点(あと1点でパーフェクト!)を取ったことが学校中の話題になりました。私はその人と面識はなかったのですが、部活の先輩とその話をする中で先輩が、実はその人が特に嬉しそうにしている様子ではなく、どちらかという1点のミス(漢字の止めはねのミスだったらいい)について、些細な不注意を犯した自分に腹を立てているように見えるぞ、と言うのです。自分達には「永久に取れない保証」つきの点数を目の当たりにして、呆気にとられると同時にうらやましくさえ感じている俺たちってなんだかなあ…と、その先輩と二人で落ち込んだ気持ちになったものです。そしてその「1点の値打ち」について、二人であれこれ勝手に考えました。



たどり着いた答えは結局、「その人は、他人と自分とを比べてない。だから499点のすごさよりも1点のミスの方が重いだろう。俺たちはいつも人と比べてばかりいるから、ダメなんだ。」でした。でもその時は、じゃあ何がダメなのかなんて分かりませんでしたし、499点はやっぱりうらやましかったのですが…

さてその思い出と、小冊子に登場した父母の会話から今思うこと、それは「テストで何点取れたか」という結果は、やっぱり大事だということです。何点でもいいじゃないか、とは思いません。しかし一方で満点に近ければ近いほど無条件によい、というものでもないと思うのです。では何が大事か、それは手に入れた結果が、自分の努力の成果としてふさわしいかどうかという「自分の納得」なのではないでしょうか。子の将来を案じ、あれこれ心配する気持ちは親心です。しかしだからこそ、子の将来の可能性を数字だけで測ってはいけません。私たち大人は、実社会の中で「テストで100点を取り続けた者は、必ず幸せな人生を送れるわけではない」ことを、よく知っています。それよりもテストという試練と闘うための、勉強という武器に磨きをかけることに対して「努力しているか」「がまんしているか」「逃げていないか」という「その時までには何をなし得たか」の方がはるかに大切なのです。テストを持ち返ったお子さんにかかる言葉、込める思いが、そこに書かれた点数に一喜一憂することのない、あたたかくそして厳しく、一途な思いでありますように。



5～6月の予定

- 5 / 24 (月) 理科コンテスト (中1) 社会コンテスト (中2)
 27 (木) 全国学力調査 (小6、中3)
 ~ 28 (金) 市学力調査 (小5、中2)
 6 / 4 (金) 中学校体育大会
 15 (火) 学力テスト (中1、2) 漢字コンテスト (小全)
 16 (水) 学力テスト 計算コンテスト (小全)
 25 (金) 二州地区夏季総合競技大会
 ~ 26 (土)



30 (水) オープンスクール

中学校体育大会の実施について

○昨年度同様、感染予防を第一として開催します。以下についてご理解下さい。

- ①グラウンドが未整備ですので、敦賀市運動公園体育館で実施します。
- ②参観はご家族のみ(予約制)とします
会場の検温で発熱がある方は入場できません
- ③大会1週間以内に37.0℃以上の発熱や体調不良のあった生徒は参加できません。
- ④緊急事態宣言等の延長等、感染拡大状況によって延期する場合があります。

☆小学校の体育大会は10/21 (木)の予定です。(運動公園体育館)



○内科検診 5/24 (中2)・5/27 (小2、5、6-2)・6/8 (中1、3)・6/9 (小3、6-1、特支)・6/17 (小1、4)

□歯科検診 6/22 (中1、2、3)・6/24 (小1、2、3、特支)

◇耳鼻科検診 5/25、26 (小2、4、6)・5/28 (中1、3)



角鹿スタンダード Basic rules and promises of TSUNOGA Vol.1

◎角鹿小中学校での学校生活について、約束やお願い等をまとめました。今回は「生活編」です。

欠席・早退・電話対応

欠席遅刻の連絡 7:55まで

△連絡がない場合、確認のため家庭訪問や職場への電話連絡をする場合があります

◎早退や体育の見学等の場合も連絡を(小学生は連絡帳でも可)

□小学生の遅刻、早退は保護者送迎をお願いします(中学生は状況に応じて連絡します)

☆緊急時以外、19:00以降の学校への電話はご遠慮下さい。

登下校・帰宅時刻

朝の玄関解錠→7:30

◇安全のため徒歩、自転車通学の児童生徒は早く登校しすぎないように、出発時刻を調整して下さい

○平日、事前連絡なしで小学生は15:30、中学生は17:30より遅く下校することはありません

◎小学生の自転車は、学年によって決められた範囲で◎ヘルメット着用は、命を守る重要ルールです

校外での約束

ダメなことはダメ!

- ×いじめ・悪口・危険な行為
 - ×他人の家や敷地に勝手に入る
 - ×お金の貸し借り、おごりおごられ、もの(ゲーム机等)の無断借用
- 場合によって犯罪に!

心配です! ネット依存

△SNSはいじめの温床になりかねません。ゲーム依存は重症化し入院するケースも→ご家庭でのルール、管理の徹底を!

宿題と家庭学習

宿題は毎日出ます

◎「学力」は家庭学習習慣しだい→授業で学習したことは、家庭学習によってしっかり身につきます。

◇習慣化は、毎日決まった時間帯を学習時間として確保することから始まります

◇宿題が終わった→まだ時間がある→自主学習か読書を推奨(家族は助言者、自分で考えて決める)

漢字、九九、計算、ローマ字etc...

保健室から

生活リズム・感染予防

○朝ご飯でスイッチ・オン!

朝食は午前中のエネルギー源、頭脳も身体も朝食で目覚めます

○うがい、手洗いで感染予防

保健室は病院ではありません

◇保健室は一時的に応急手当を行い経過をみる場所です

◇教室での学習が困難な場合はお迎えをお願いしています

!緊急の場合、ご家庭への連絡より先に119番することがあります

ケガで病院へ行ったら...

◇登下校中のケガも、日本スポーツ振興センターの対象となります
登下校中のケガで病院にかかったときは担任に相談してください
必要な書類をお渡します

<虐待>は通告します

□「児童虐待の防止等に関する法律」に従い、虐待の疑いがある場合は児童相談所に通告します

♡角鹿小中学校は関係各機関と常に連携しながら、子ども達にとって安全・安心な学校運営を推進していきます。